次期学習指導要領 教科別まとめ　高校 No.04

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

理科

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる

高校版





10秒でいうと

「科学と人間生活（8新単位）」1科目で必履修を満たす道を新設。
各基礎科目に科学ガイダンス

やさしく言うと

高校の理科は、「○○基礎」と「○○」という科目の基本的な枠組みを保つ方向です。そのうえで、必履修の満たし方に新しい道を加える案です。「科学と人間生活（8新単位）」1科目だけで満たせるようにします。各基礎科目には「科学ガイダンス」を置く方向です。科目を組み合わせた柔軟な開設も考えられるとしています。暗記に偏らない授業づくりも促されます。

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 理科のポイント	4つ	2 主な変更点	9項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）	4項目	4 高校の科目と単位	
5 授業時数		6 生成AI・ICTとの付き合い方	3項目
7 今からできる準備チェックリスト	7項目	8 次期を先取りする授業アイデア	1本
9 指導案（試案）	1本	10 現行の学習指導要領・解説（高校）	

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

理科の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で理科の目標と「見方・考え方」の文言を統一し、学習内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理し直す方向。
2. 中・高に「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス」、小学校に分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設けることが適当とされた。
3. 高校は「科学と人間生活（8新単位）」だけで必履修を満たす道を加える案。学習内容は「統合的な理解・総合的な発揮」に必要なものに精選する方向。

1 理科のポイント

4つ

1 「科学と人間生活（8新単位）」の道

今は「科学と人間生活」と基礎科目1つ、または基礎科目3つで必履修を満たします。これに加えて「科学と人間生活（8新単位）」を新設する案です。物理・化学・生物・地学の各分野には学習事項が2つずつあり、今はそのうち1つを選んで履修します。これを、両方とも履修できるようにすることが適当とされています。P184 P188

授業では、たとえば 理科を4分野すべて学ばずに卒業する生徒向けに、生活と結び付いた幅広い内容で1年間を組む。そんな科目設計が考えられます。

2 基礎科目に「科学ガイダンス」

科学ガイダンスは高校では各基礎科目に置く方向です。実際には、最初に学ぶ基礎科目の冒頭である程度まとめて学びます。ほかの基礎科目では、内容を重点化して扱うとしています。検証の方法や研究とのつながりは、科目の内容と関連付けて学ぶとされています。P187

授業では、たとえば 物理基礎の最初の数時間で、仮説と検証の考え方や研究倫理を、簡単な実験を通して学ぶ。そんな導入が一例です。

3 科目を組み合わせた柔軟な開設

高校の教育課程を柔軟にする仕組みが検討されています。たとえば「物理基礎＋物理」を5～6単位で、4つの基礎科目の組合せを6～8単位で開くことが考えられるとしています。ただし時数を減らしても、知識・技能の定着が疎かにならないよう注意が必要です。P190

授業では、たとえば 4つの基礎科目の共通部分を整理し、分野をまたぐ探究の時間を生み出す年間計画を試しに作る。そんな検討が考えられます。

4 暗記より原理と魅力を

「統合的な理解」は、高校でもできるだけ平易でシンプルに示すとされています。用語の暗記や計算に偏らず、探究で導かれる原理・法則やその魅力を理解する授業を促すためです。教科書の内容も、必ず扱うものと必要に応じて扱うものを分かるようにすることが考えられています。P186 P189

授業では、たとえば 公式を覚える前に、実験データからグラフを描き、自分たちで規則性を見つける時間をとる。そんな授業が方向に沿う例です。

2 主な変更点

9項目

1. 高 高校の必履修に「科学と人間生活（8新単位）」だけで履修する道を新設する案

高校理科の必ず学ぶ科目の組み方は、今の2通り（「科学と人間生活」＋「〇〇基礎」1科目、または「〇〇基礎」3科目）に加えて、「科学と人間生活（8新単位）」1科目だけで満たす3つ目の道を設ける案である（「新設することが適当」とされた）。生徒のいろいろな希望に合わせ、学校がもっと自由に教育課程を組めるようにするためである。一方で「〇〇基礎」→「〇〇」の順に学ぶ基本の枠組みは引き続き維持すべきとされた。P183 P188

2. 中 高 中学校・高校に「科学ガイダンス」を新設する方向

各分野の学習に入る前に、「科学とは何か、科学的とは何か」、理科の全体像と分野どうしの関係、研究倫理、検証の方法、理科と研究・社会とのつながりを学ぶ内容を中・高に新たに設けることが適当とされた。理科を学ぶ意味を実感させ、知的好奇心を引き出す導入であり、知識の暗記を求める指導にしないよう注意されている。高校では各「〇〇基礎」に位置付け、最初に学ぶ基礎科目の冒頭である程度まとめて扱う案である。総授業時数を増やさないことが前提である。P183 P187

3. 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる

理科は実験のやり直しなどで時間を組み替えることが多いため、時間の余白が不可欠とされた。「統合的な理解」「総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、必ずしも必要でない内容や、学年・学校種の間で重なりが大きい内容は整理する方向である。教科書についても、必ず扱う内容か必要に応じて扱う内容かが分かる工夫を教科書会社に求めることが考えられている。P189

4. 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一

学校段階のつながりや学問の筋道を分かりやすくするため、小・中・高で共通して4分野に分けて内容を整理することが適当とされた。さらに各分野を3つ程度の「区分」に分け、区分ごと・学校種ごとに「統合的な理解・総合的な発揮」を示す方向である。小学校の内容が難しくなるわけではないことは、国が丁寧に知らせるとしている。P183 P186

5. 高 高校「科学と人間生活」の内容を見直し、両方の項目を学べるように

高校で4分野すべてを学ばずに就職・進学する生徒も含め、理科を学ぶ意味や面白さを感じ、社会で最低限必要な科学の素養を身に付けさせる科目として内容を見直すべきとされた。中学校理科とのつながりを意識し、4分野を広くカバーしつつ生活や社会に結びついた身近な内容にする方向である。今は物理・化学・生物・地学の各項目で「2つのうち1つ」を選んで学ぶが、両方を学べるようにすることが適当とされ、その場合は4単位程度が適当と考えられている。P183 P188

6. 高 高校で科目を組み合わせた柔軟な科目開設を可能にする方向

高校全体で検討されている科目の組替えのしくみを使うと、たとえば「物理基礎＋物理」を一体にしたり、「〇〇基礎」4科目を組み合わせたりする科目開設が考えられる。単位を少し減らすこともできるが、時間が減ることで知識・技能の習得がおろそかにならないよう注意が必要とされている。P190

7. 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に

教科の目標の文言を小・中・高でそろえる方向である。「見方・考え方」は、デマやフェイクニュースが広がる時代を踏まえ、メディアリテラシーや批判的思考を意識したものにし、対象を「自然の事物・現象」から「自然や社会の事象・言説」へ広げる案である。また「科学的な視点」は「自然科学的な視点」と言い換え、人文・社会科学との違いをはっきりさせるとしている。P183 P185

8. 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる

今は学校種によって探究の過程の用語などが違い、教科として統一されていないという課題がある。そこで「科学的な探究」の過程を小中高を通して位置付け、解説などで具体的に示すべきとされた。資料編の案では、授業で「課題」を「問い」、「仮説」を「予想」などと言い換えることは妨げないとしている。P182 P183

9. 表形式化は「並列パターン」、「統合的な理解」は平易に示す

理科は知識・技能の積み上がりがはっきりしているので、知識・技能と思考力などを並べて示す「並列パターン」で整理する方向である。「統合的な理解」は、個々の知識をどんな大きな理解に結び付けるかを先生がイメージできるよう、高校も含めできるだけ平易に示すとしている。「総合的な発揮」は、どの区分でも「特徴を見いだして表現する」ことを共通で示し、毎日の授業で科学の考え方を実践できるようにするとしている。P186

3 現行と次期の比較（新旧対照）

4項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
見方・考え方	「（身近な）自然の事物・現象」を「科学的な視点」で捉え、比較したり関係付けたりする方法で考える（小は問題解決、中高は科学的に探究する方法）。	「自然や社会の事象・言説」を「自然科学的な視点」から捉え、観察・実験の結果や科学的知見に基づいて客観的・論理的・批判的に考える、と小中高で統一する案。P183 P185
高校の必履修科目の組合せ	「科学と人間生活」＋「〇〇基礎」1科目（4単位）、または「〇〇基礎」3科目（6単位）のどちらか。	上の2通りに加え、「科学と人間生活（8新単位）」1科目を新設することが適当とされた。組合せは8新単位・8新単位・12新単位の3通りになる案。P183 P188
「科学と人間生活」の学び方	物理・化学・生物・地学に関する各項目で、それぞれ2つのうち1つを選んで学ぶ。	両方を学ぶことも可能にすることが適当とされた（その場合は4単位程度＝8新単位）。内容も中学校とのつながりと身近さを重視して見直す方向。P188
高校理科の標準単位数	科学と人間生活2、物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎 各2、物理・化学・生物・地学 各4（単位）。	科学と人間生活「4 or 8」、各「〇〇基礎」4、各「〇〇」8（新単位）とする案（P82「構成（案）」）。P82

4 高校の科目と単位

物理・化学・生物・地学の分野別に、選択必履修の「〇〇基礎」と選択科目「〇〇」を置き、「〇〇基礎」→「〇〇」の順に学ぶ枠組みは維持（P188）。分野横断の「科学と人間生活」も続け、内容を見直したうえで4新単位（内容を選ぶ）と8新単位（全内容）の2つの形にする案（P183・P188、資料編m3 P24）。必履修は①「科学と人間生活（8新単位）」【新設】、②「科学と人間生活（4新単位）」＋「〇〇基礎」1科目、③「〇〇基礎」3科目の3通りとする案。各基礎科目には「科学ガイダンス」を位置付ける方向（P187）。

5 授業時数

高校：新しい単位計算（1新単位＝50分×17コマ、P46）で、科学と人間生活4 or 8、各基礎4、各「〇〇」8新単位（現行は2・2・4単位、P82）。組替えのしくみで例：物理基礎＋物理 現行6単位→5～6単位、基礎4科目 現行8単位→6～8単位（細分化しない場合、P190）。小・中：理科の節に具体的な時数の記載はない。総論では、情報の新教科・領域の時数を生むため、小学校3年以上の教科等（35コマ以下のものを除く）から一律3-4%程度を「広く薄く」減らす考え方を示し、実数は今後示すとしている（P79）。理科は調整授業時数の対象教科でもある（P190）。科学ガイダンスは総授業時数を増やさないことが前提（P187）。

6 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. 生成AIとデマ・フェイクニュースの時代の科学的な素養

生成AIの発展もあって、非科学的なデマやフェイクニュースがSNSなどで急速に広がっています。だからこそ全ての人に科学的な素養を身に付けさせる理科教育の重要性が高まっており、科学的に探究する従来の「見方・考え方」は引き続き適切だとされています。P183 P185

2. ICT活用例に「生成AIを適切かつ効果的に利用する」

理科のICT活用は学校や地域で差が大きいので、デジタルとアナログの適切な組み合わせを含む効果的な事例を、国が改訂を待たず広く知らせます。例として、データの記録・蓄積、シミュレーション、センサー、AR/VR、生成AIの適切かつ効果的な利用、ポートフォリオなどが挙がっています。P191

3. 理数：AIを含むICTの良い使い方と、学びに繋がらない使い方

高校の共通教科「理数」では、探究の学習過程や指導・評価でのICT（AIを含む）の効果的な使い方と、逆に豊かな学びにつながらない使い方を、国が解説などで示す必要があるとされています。特にAIについては、科学的な探究での活用例を示すことも重要とされています。P196 P198

7 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 小中（または中高）で、探究の過程を表す言葉（問題と課題、予想と仮説、計画、考察、結論など）の使い方の違いを一覧にし、ワークシートや掲示の言葉をそろえる準備をします。P182 P183
- [ ] 今すぐ デマや誇大広告、ニュースの中の科学的な主張など、「自然や社会の事象・言説」として授業で検証できる題材を集めておきます。実在の商品や個人を攻撃しない形に作り替えて使います。P183 P185
- [ ] 今すぐ 観察・実験の器具や実験計測用センサーの整備状況を点検し、理科教育設備整備費等補助金の対象を確かめて、更新の計画を立てます。P182 P192
- [ ] 告示まで 中学校・高校の年度初めの授業を、「科学とは何か」「検証の方法」「研究倫理」などを体験的に考える時間として作り直し、「科学ガイダンス」を先取りします。用語の暗記にならないよう、活動中心にします。P184 P187
- [ ] 告示まで 現行の学習指導要領・解説に照らして必須事項を確認したうえで、発展資料や例示の扱いを見直し、再実験などに使える時間の余白を単元計画の中で検討します。次期課程での正式な区分は、告示・解説・教師用指導書の公表後に反映します。P189
- [ ] 先行実施まで 高校では、「科学と人間生活（8新単位）」だけで必履修を満たす新しい組み合わせや、「物理基礎＋物理」などの科目の組替えも選択肢に入れて、教育課程の案を検討し始めます。P184 P188 P190

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜理科（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

☐ 全面実施まで 小中（または中高）の先生で合同の研究授業や教材研究を行い、学校種をまたいだ学習内容のつながりを確かめます。調整授業時数の「研究・研修等枠」の活用例にもあがっている取組です。P182 P190

8 次期を先取りする授業アイデア

1本

高1（物理基礎「落体の運動」） 1単位時間（50分）

都合の悪いデータ、消していい？

「重い球は速く落ちる」というレポートを、全データで検証し直して科学の誠実さを考えます。

手順・ワークシート

ねらい

落下時間の測定データを全数で整理・比較し、一部のデータだけを選ぶと誤った結論になることを示したうえで、質量と落下時間の関係について根拠をもって結論を述べることができる。

流れ

- 5分 「大きさが同じで重さのちがう球を同時に落とすと、どちらが先に着く？」と予想させます。続けて架空のレポートを配り、「この結論を信じていい？」と問います。
- 12分 班で、2つの球を1.0mの高さから各3回ずつ落とし、スロー動画で落下時間を測って表に記録します（光電門タイマーがあれば使います）。
- 12分 全データの表を配り、レポートが使った6回と使わなかった10回を色分けします。全データでそれぞれの平均を求め（重い球およそ0.455秒、軽い球およそ0.456秒）、あわせて最小値と最大値（範囲：重い球0.43～0.48秒、軽い球0.44～0.48秒）を書き出し、全測定値を数直線上に点で打って、2つの球の値がどのくらい重なっているかを見ます。そのうえでレポートの結論と比べます。
- 10分 班で、データを選んで使うことがなぜ問題か、どんな場合ならデータを除いてよいか（例：測定ミスの理由がその場で記録されている場合）を話し合い、「除くなら理由を記録し、除いたことも報告する」などのきまりをまとめます。
- 6分 自分たちの測定結果と全データをもとに、質量と落下時間の関係について結論を書きます。空気の抵抗の影響が小さい条件で実験したことも考察に入れます。
- 5分 振り返りとして、「科学の結論を信頼できるものにするために、自分が実験で守りたいこと」を書きます。

評価

【思考・判断・表現】全データを根拠に結論を述べ、データを選ぶと結論がゆがむことを説明しているかを考察で見取ります。【知識・技能】測定を繰り返し、平均とばらつき（最小値・最大値の範囲や数直線上の点の重なり）を使って結果を整理しているかを見ます。【主体的に学習に取り組む態度】データの扱い方のきまりを自分たちの実験に生かそうとしているかを、振り返りで見ます。

9 指導案（試案）

1本

高等学校第1学年　化学基礎　全7時間（本時は第3時）

物質を分ける・見分ける ～科学的な探究の進め方を身に付けよう～

中央教育審議会教育課程部会の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、見方・考え方の対象を「自然や社会の事象・言説」に広げて批判的に考察する案、「科学的な探究」の過程を教育課程全体で位置付けて用語をそろえる方向、高等学校の各「〇〇基礎」に「科学ガイダンス」を位置付け、最初に学ぶ基礎科目の冒頭であ…

指導案の全文

本時のねらい

ペーパークロマトグラフィーの実験を通して、調べた水性ペンの黒インクについて、色素の分かれ方から成分の構成を考え、班ごとの結果を比べて、言説に対してどんな条件の実験から何が言えるかを根拠を示して表現することができる。

本時の流れ

- **5分** **導入** SNS風の言説（自作）「黒いペンのインクは黒い色素1種類でできている。だから、どのメーカーの黒も中身は同じ」を読み、第1時の科学ガイダンスで学んだ「科学的に確かめる」ための観点（客観性・再現可能性）を振り返る。
- **6分** **展開** 【課題の設定・仮説の設定】班（4人）で課題を「水性ペンの黒インクは1種類の色素でできているか。メーカーによって違うか」と設定し、理由を添えて仮説を立てる。
- **6分** **展開** 【検証計画の立案】変える条件（ペンのメーカー：A社・B社・C社）と、そろえる条件（ろ紙の種類と大きさ、インクを付ける位置と量、展開液の種類と量、時間）を決め、手順をワークシートに書く。
- **15分** **展開** 【観察・実験の実施】短冊状のろ紙の下から約1.5cmの原点に3社のペンで小さな点を付け、水を入れたビーカーに立てて約10分間展開する。展開中は色の分かれ方の予想を書き、変化を観察して記録する。展開後、鉛筆で溶媒の先端に印を付け、端末で撮影する。
- **8分** **展開** 【結果の処理】撮影した写真をクラスの共有シートに班ごとに貼り、分かれた色の数・順番・移動距離を記録する。同じメーカーのペンの結果を班どうしで比べる。
- **7分** **展開** 【考察・結論】仮説と結果を照らし合わせ、調べたペンごとに、複数の色に分かれた場合は「少なくとも複数の色素を含む」と言えること、一つのままだった場合は「この条件では分離を確かめられなかった」としか言えないこと、メーカーによって分かれ方に違いがあったかを、結果を根拠に説明する。色素が分かれる理由を、水への溶けやすさと紙へのくっつきやすさの違いから考え、言説に対する結論を書く。
- **3分** **まとめ** 振り返りシートに、本時で使った探究の過程の段階と、次時に確かめたいこと（展開液を変えたらどうなるか等）を書く。

PDF版：shidoan-ko1-kagakukiso-ink-chromatography.pdf（ダウンロードコーナー）

10 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編**
https://www.mext.go.jp/content/20250311-mxt_kyoiku02-100002620_05.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る